

東京大学附属（小石川）植物園観察会

2019.07.24

10時に植物園前に現地集合した。入園料が団体料金になる20名以上の参加者が集まるかドキドキしながら待っていた。予想を超え、38名もの参加者が集まりほっと一安心しながら入園した。

まず、入り口付近のフシノハアワブキやケンボナシから観察を開始し、少し寄り道をしてヒゼンマユミに実がなっているのを観察した。1999年に開催された昆明世界園芸博で、目玉商品の一つとして注目されたというチュウキンレンにはまだ花が残っていた。花弁のように見えるのは苞葉とのこと。シュロ、トウジュロ、チャボトウジュロを比べてヒマラヤスギを遠めに観察した。シダ園は全員が一度には入りきれないので順番に観察してもらった。メンデルのブドウの前で、横浜こども植物園のメンデルのブドウの苗もここから分けていただいたものだと小暮さんから解説があった。ニュートンのリンゴの実は赤く色づいていた。精子発見のイチヨウを観察し、スズカケノキ、モミジバスズカケノキ、アメリカスズカケノキの違いを確認した。クスノキ科の植物としてカゴノキとバリバリノキを観察した。マルバチシャノキの葉の表面のざらざら感には皆が驚いていた。ムラサキ科のイメージが変わった。ハナキササゲの実の中の種を観察した後、お昼休憩をとった。

休憩後、トイレの裏までクスノキ科の続きとしてアオガシ（ホソバタブ）を観察しに行った。大きなタカラビの胞子のはじけそうな様子をルーペで観察した。楽しみにしていたヘツカニガキの花は残念ながら終わってしまっていた。ただし、分類標本園ではタニワタリノキのお花が見ごろだったので満足できた。アオカズラ（ルリヒョウタン）の実がなっており、とても珍しいものだと教えていただいた。赤いひょうたんのような実だったが、このあと青くなるようである。薬園保存園ではカノコユリとオオキツネノカミソリが咲いていた。午前中は一雨あったが、その後は暑すぎる天気だった為、14時過ぎに現地解散し、自由行動とした。

(五十嵐 愛 記)



観察風景



ヒゼンマユミ



チュウキンレン



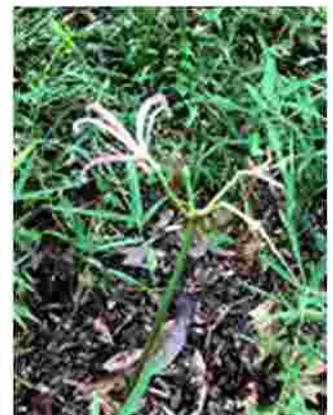
ハナキササゲ



タニワタリノキ



アオカズラ



オオキツネノカミソリ